# コミュニケーション

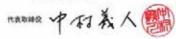


「JR 東日本グループ 社会環境報告書 2005 」に対する第三者審査報告書

李成 17 年 7 月 22 日

東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 大 塚 睦 毅毅

あずさサスティナビリティ株式会社 (あずさ蟹査法人グループ)



#### 1. 審査の目的及び範囲

当社は、東日本旅客鉄道株式会社(以下、会社という)が作成した「JR 東日本グループ 社会環境報告書 2005」(以下、「社会環境報告書」という)について審査を行った。審査 の目的は、「社会環境報告書」に記載されている平成 16年4月1日から平成 17年3月31 日までを対象とした環境パフォーマンス指標及び環境会計指標(以下、指標という)が、会 社の定める基準に従い、重要な点において、合理的に把握、集計、開示されているかについ て結論を表明することである。「社会環境報告書」の作成責任は会社の経営者にあり、当社 の責任は独立した立場から「社会環境報告書」の信頼性に関する結論を表明することにある。

### 2. 審査手続

当社の実施した主な審査手続は以下のとおりである。

- 「社会環境報告書」の作成開示方針について質問
- 指標に関して会社の定める基準を検討
- 指標の把握方法及び集計フローについて質問し、内部統制の整備・適用状況を評価
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているか、原始証拠とのサンプ リングによる無合等により確認
- 一部サイトに対する現場往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

# 3. 審査の結論

審査の結論を次のとおり表明する。

「社会環境報告書」に記載されている指標は、会社の定める基準に従い、合理的に把握。 集計、開示されたことにおいて、変更すべき重要な事項は認められなかった。

## 今後の展望

2005年度を達成年度とする環境目標11項目のうち、2003年度の実績 で6項目を達成、未達成の項目も2005年度までに達成できる見通しが立っ たことを受け、新たにJR東日本グループとしての目標も加えた2008年度を 達成年度とする環境目標を設定しました。グループー体となった環境経営 をさらに推進し、目標の達成に向けて取り組みを進めます。

地球環境との共存を図るうえで、環境負荷の小さい鉄道は大きな役割 を果たせるものと考えています。ただし、そのためには、安全で安定した輸 送サービスの提供と、新たな価値創造により地域社会の発展の一翼を担 うことで、グループの社会的責任を果たしていくことも重要です。

今後もJR東日本グループは、持続可能な社会の実現に向け社会環境 活動の推進に努めてまいります。



取締役 経営企画部長 大和田 徹



あずさサスティナビリティ 株式会社 マネジャー / 公認会計士 矢尾 眞穂 氏

「社会環境報告書2005」では、「グ ループ理念」の実現に向けた2008年 までの到達目標である新中期経営構想『二 ューフロンティア2008』をトップメッセ ージの次に掲載されました。この事は、 社会的側面も含めた中期目標の公表と して評価されるものと考えます。

さらに安全については、ハイライト編 の「究極の安全をめざして」にて、JR東 日本の安全に対する考え方を中期計画 も含めて説明されています。

また、環境保全活動においては、さら なる改善をめざす2008年度目標を新 たに設定しているほか、グループ全体と しての目標も新たに設定するなど、JR 東日本グループ一丸となって取り組む姿 勢が示されています。

これらの記載から、社会環境報告書を、 単に過去から現在に関する報告だけで なく、将来に向けた企業の姿勢を示すも のとして考えていることが感じられました。

なお、環境への取り組みについては環 境会計が開示されていますが、今後は重 要な柱である安全についても、どのよう な目標のもとにどのような活動を行い、 コストをかけているかといった点につい て、さらなる情報開示をご検討されては いかがでしょうか。